

気仙沼港の気嵐

宮城県気仙沼市



写真1 気仙沼気嵐

「気仙沼港の気嵐[※]」は冬を告げる幻想的な景色である。

気嵐は、海面で発生する霧の一種で、海水と空気の温度差によって水蒸気が大量に発生する現象である。特に、放射冷却が起こる早朝に見られ、風が弱く穏やかな条件で発生する。気仙沼港の気嵐は、リアス海岸特有の気仙沼湾の地形により、例年10月中旬から1月下旬に日の出時刻から約1時間の時間帯に見られる。気嵐の中を出航する大型漁船の姿は、希望に満ちた一日の始まりを想わせる。(写真1)

気仙沼港には、世界三大漁場の一つである三陸沖の漁場から毎日旬の魚介類が大量に水揚げされる。カツオ、サンマ、メカジキ、サメなどは全国屈指の水揚げを誇る。中でもサメの水揚げは国内半数以上の割合を占め、冬から春先にかけて「北西風（室根おろし）」を利用したフカヒレの天日干しは冬の風物詩である。江戸時代からの伝統で、約90日間の乾燥を経て黄金色に輝く姿は、「気仙沼産フカヒレ」の品質の高さの象徴となっている。(写真2)

※) 表紙写真提供：宮城県観光戦略課

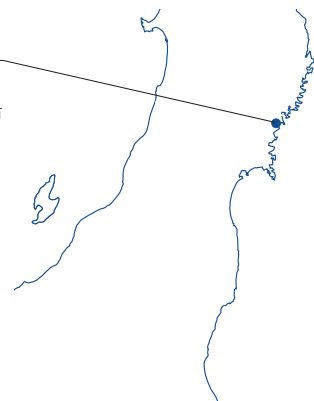


写真2 フカヒレの天日干し

(表紙の写真)

気仙沼港の気嵐

場所：宮城県気仙沼市



■アクセス

- JR一ノ関駅から大船渡線で「気仙沼」駅まで約85分
- 東北自動車道一関ICから約75分

<参考>

気仙沼観光推進機構

<https://kesenuma-kanko.jp/>